

自分の国の方向性を自分なりに考える


東根市立神町中学校教諭 3学年 鈴木 翔悟

実施年月日：令和4年12月16日～12月21日 33名

1 実践計画・指導のねらい

物価の高騰で、私たちの暮らしに大きな影響が出ている。生活する上で欠かせない「お金」。どのようにして支出を抑えつつ、自分のやりたいことを実現させていくかを考えたときに、生徒の中でも自然と「税金で支払われるお金をなんとかしたい」といった声聞こえてきた。政府の歳出も増加傾向にあり、どのようにして予算を支える税金を確保するのか、増税の話題も出てきている。そこで、これからの日本を支えていく中学生の世代が、自分たちの暮らす日本社会の未来について自分の事として捉え、どのような方向に進んでいくべきかを真剣に考えることが本単元のねらいである。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・税金の種類を整理し、税金の役割を理解する。	○ 政府が行う財政政策。そもそも「税」って？ ● やはり税金は必要だ。 ● 諸外国と比べると、消費税率は高い方ではない。 ● こんなに種類あるの？全部覚えるの？ □使用教材名 副教材「わたしたちの生活と税」(スライド) 税の種類一覧(学習プリント)
2 3	・社会保障制度の内容と、諸外国の実態を調べる。	○ 歳出で一番多い「社会保障」って？日本だけ？ ● 医療費払わなくていいのはこれのおかげか。 ● コロナ禍で公衆衛生増えているのかな。 ● 年金増えている。このままだと負担増えそう。 ● 日本以外ではどうなっているのかな。 □使用教材名 少子高齢化と社会保障(自作資料)
4	・日本の今後の財政について考える。 	○ 大きな政府 or 小さな政府？ ● 教育への支出が少ないため、未来ある子どもたちのために税を集めるのであれば賛成。大きな政府にすべき。 ● 社会資本を充実させることが生活の充実や満足感につながると思う。大きな政府にすべき。 ● 様々な税金が払える人はいいけれど、税負担が苦しい人も少なからずいる。負担を増やさないために小さな政府にすべき。 ● 政府が制限かけずに市場経済に任せた方が家計の収入が増えると思う。小さな政府にすべき。 □使用教材名 教科書「中学生の公民」(帝国書院) 各自調べ学習した内容

【指導のポイント】≪1時間目≫

中学生1人あたりに使われている税額や諸外国との比較データを提示することで、よりリアルに捉えられるようにした。税金の種類については、クイズにしながらゲーム感覚で学習できるようにした。

【指導のポイント】≪2時間目≫

少子高齢化のデータとともに社会保障関係費の増加を見ることで、「必要だけれど負担とのバランスの検討が必要」であることを意識させた。諸外国の実態調べは、興味ある国をできる範囲で行った。

【指導のポイント】≪4時間目≫

どちらがいいか結論を出すのではなく、理由を大切に話をさせるようにした。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 消費税以外にも多くの税があることや、生徒の感覚として納める税金の金額が少なくないことに気づき、税に対する関心の高まりを感じた。
- ◎ 自分が生活する国や地域の将来を考えることができ、国民主権を体現する国民としての感覚を養うことができた。
- ◆ 「持続可能」であることや、「自分にとって」だけにならないように留意して指導していくことが重要だと考える。
- ◆ 今後の税制度や改革について目を向けさせる機会をつくっていく必要がある。